



# 難病ネコブ病 防除に挑む!

ハクサイがいつの間にかしおれて枯れてしまった。引き抜いてみると、根にはコブがいっぱい。アブラナ科野菜をつくる農家を悩ますこのネコブ病はじつにやっかいな病気だ。

この病原菌はアブラナ科野菜の根が伸びてこなければ、何年でも土の中でじつと眠っている。いったん根に侵入するとコブをつくり、養分や水分を吸

えなくさせる。コブ1gの中にはなんと一〇億個もの病原菌がつまっています、水にのってあっという間に広がってしまつのだ。

現在、防除は抵抗性品種を利用したり、石灰質資材によつて土壌pHを高めながら薬剤で消毒する方法がとられているが、決定打にはなっていない。

## ネコブ病を作物の力で防ぐ

編集部

### 葉ダイコンを作って 菌密度を減らす

この難敵ネコブ病を作物の力を借りて防いでいるのが、ブロッコリーをつくる埼玉県岡部町の鈴木時男さんだ。鈴木さんのやり方は葉ダイコンを作付けてすき込む方法。現



鈴木時男さん。畑3.7haでブロッコリーとトウモロコシをつくる(赤松富仁撮影)



大きなコブができたカブの根。やがてコブは軟らかくなって腐る  
(清水寛二原図)

在、薬剤のネビジンの使用量も減らし、  
一〇a三〇kg使う人が多いなか、鈴木  
さんは一〇kg以下。畑は火山灰と沖積  
層が入り混じった土地だ。

この方法はもともとネコブに強いダ

イコンの性質を利用したもので、根の  
中へ侵入したネコブ菌は増殖すること  
ができなくなる。ダイコンが腐ると菌  
も死ぬので、確実に畑の菌密度を減ら  
せるといわれている（九七年十月号）。

ただし、成果をあげるにはいくつかが  
ツがあるようだ。

すき込み後、  
期間をおいたほうがいい  
大抵しるなで効果の判断

鈴木さんのやり方はこ  
うだ。堆肥を入れたあと、  
「CR」 というネコブ  
完全抵抗性の葉ダイコン  
(株ナコス TEL〇五九二  
六八 四八二五) を反当  
たり六ノ播く。葉が二〇  
cm以上に伸びたところで、  
発酵材をふり、すき込む。  
発酵材は嫌気性菌のラク  
トバチルス三〇〇gを目  
化石一〇kg、米又カー五  
kgと混ぜたもの（いずれ  
も反当たり）。こうして三  
〜四週間以上おいてから  
ブロッコリーを植える。

\*鈴木時男さんの栽培技術、葉ダイコンによるネコブ防除の試験研究については「農業技術大系 土壌施肥編」第5巻、第8巻または「農業技術大系CD-ROM」にくわしく出ています。

つまり、葉ダイコンをすき込んだ後、作物を植えるまでに十分期間をおくことがコツだ。できれば一カ月〜一カ月半おいたほうがいい。もしくは発酵材を使って分解を早めることだ。葉ダイコンが未分解だとネコブ菌は完全には死なず、発病が減らないこともあるという。

すき込んだ後、どうしても発病が心配なら、大阪しろなを播いて効果を確かめる方法もある（株ナコス東村さん）。大阪しろなはネコブにとても弱いので、半月育てた株を抜いてコブがなければ効果あり。コブがあれば、農薬をふるか、もう一度葉ダイコンを播く。ちなみにCRの種子代は反当たり一万八円だそうだ。

また葉ダイコンを利用するなら、薬剤のネビジンと併用しないほうがいいようだ。山口大の田中秀平先生によると、「ネビジンはネコブ菌の発芽を抑える働きがある」という。したがって、

葉ダイコンでネコブ菌を捕殺しようとすると、ネビジンがあると菌が葉ダイコンの中に侵入できず、葉ダイコンの防除効果は弱まってしま

うと考えられる。しかもネビジンは菌そのものを殺すわけではないので、畑の菌密度はいつまでたっても減らないことになる。

このほか、「小瀬菜」という葉ダイコンも同じく効果がある（渡辺採種場 TEL〇二二九 三二二二二）。

地ダネの葉ダイコンを自家採種せり上がらない系統がネコブを防ぐ

葉ダイコンなら、安い地ダネを買ってきて自家



水口文夫さん（赤松富仁撮影）

採種したほうがいいというのは、愛知県の水口文夫さん。葉ダイコンのタネは種苗店にいけば売っているが、ネコ

## 難病ネコブ病防除に挑む!

ブ抵抗性の交配種は目がとび出るほど値段が高い。なんと一〇倍も違う(前)述のCR や小瀬菜は固定種なので手頃な値段)。

さて、その安い地ダネでもどんな葉ダイコンを播けばいいかというところ、根しない品種、つまり生育がすすんでもダイコンがせりあがってこない品種だという。いくつか地ダネを買って播いてみて、抽根しないものを選ぶのだ。ブロッコリー畑の前作に何種類もの葉ダイコンを播いていた水口さんは、品種によって後作のコブのつき方に「バカに差が出る」ことに驚いたという。そこで水口さんはせりあがってこない種類を自家採種している。

タネとり用の播種は春。ふつう花を咲かせるには、十一月とか秋に播いて寒さにあてないといけないが、水口さんは冷蔵庫にタネを入れてわざと播種時期を遅らせる。こうすると、「遅く播いて早くタネがとれる」ので、畑が

有効に使える。しかも秋播きは病気にもやられやすい。冷蔵庫に入れる期間がタネ播き前の半月ぐらい。ふつうの冷蔵庫の野菜室に入れてやればよい。ネコブ病予防のための葉ダイコンは五月に播種。量にして反当たり六〇。これくらい播かないと効果は安定しない。その後二カ月間育てて、七月下旬

にトラクターでそのまま打ち込む。そして九月にブロッコリーを定植。定植は打ち込んでから一カ月ほどおいたほうがいい。これで見事にネコブ病が防げる。結果は、「それはもう顕著に出た」。根を抜いてみるとコブが見えるものがたまにあるくらい。コブがついていても、ちゃんと収穫ができる。

## ネコブ病を育苗で防ぐ

編集部

### 根巻き苗は

ネコブにやられやすい!?

培土に炭カルを混ぜる

また育苗のやり方によって、ネコブにやられやすいかどうかが決まるといふこともあるらしい。

和歌山農試栽培部の神藤宏先生は、サブストレートポットという、ピート

モス主体の培土を不織布で包んだ円筒形のポットを使って育苗、その結果、ネコブ病による腐れが減り、収量があがったという。

サブストレートポットは、トレーの上下、横とあらゆる方向から空気が入る構造になっている。しかも培土を包む不織布は土中で溶けるといふ特徴がある(九九年三月号二二頁参照)。